



伊藤 清蔵 (いとう せいぞう)

明治8年(1875)北口村(現河北町谷地)に伊藤豫の9人の子供の長男として生まれました。山形中学に入学、途中で札幌農学校予科に転じて、明治33年同校の本科を卒業すると同時に、同札幌農学校の助教授になりました。

ドイツのボン大学を中心とする3年間の留学生生活を終え、米国経由で帰国して創立間もない盛岡高等農林学校教授に任命されます。

明治42年(1909)、教授の職を辞して、ドイツ留学時代に知り合い婚約したオルガ・デイッシュと結婚し、翌年アルゼンチンに渡り、牧畜業企業家としての道を踏み出します。

『南米に農牧三十年』の自伝によると、自ら農場の仕事をし、農場の監督・管理を兼ねて、家畜の研究を重ねながら、業務に精進を重ねています。経営が最大規模に達した大正14年(1925)には、所有地4000町歩、借地4000町歩、家畜(牛羊)数1万2千頭に達しています。

しかし、常に経営基盤の強化に努め、また学問、経験の上から「富士牧場」を創建するなど、晩年まで農牧の夢に生きました。

アルゼンチンの農牧業に対して、実践家・学者としての啓蒙活動も貴重なもので、その発展に大きく貢献しました。